



SECOND
HARVEST
セカンドハーベスト ジャパン

Harvest News

www.2hj.org

2007 winter edition

2HJ 専従スタッフからの新年のメッセージ

2006 年は、食料を必要とする非常に多くの方々に食料品を届けることができました。これもひとえに食料品を寛大に提供して下さった皆さま、財政的な支援をいただいた皆さま、食料品の配給やその他の業務を手伝って下さったボランティアの方がた、そして食料品を必要とする人たちに直接手渡して下さった施設・団体の皆さまのご協力があったからこそです。ここに改めて感謝を申し上げたいと思います。

また、昨年末にはシングルマザーや日本国内の難民の家庭を対象にしたギフトパッケージを約 200 世帯分贈るといプロジェクトを行いました。パッケージを受け取った多くの方から「すごくうれしかった」「本当にありがとう」といったお礼のメッセージを電話やFAXなどで頂きました。インターナショナルスクールの皆さまを始めご協力いただいた多くの方がたにお礼を申し上げます。

2007 年は、私たち 2HJ にとって非常に重要な年になります。2HJ の活動に対する社会的な認知も少しずつ高まってきており、企業さまからご提供いただく食料品の量も増えてきているという状況から私たち 2HJ は現在の浅草橋の倉庫スペース以外に、より大きな倉庫を確保する必要があると考えております。また大型倉庫の獲得とともに、食料品を運搬する業務に携わる人材も増員する必要があります。これまでも大型の倉庫の確保およびスタッフ増員は悲願でしたが、今回ニュー スキン ジャパン株式会社さまからご支援をいただき、それが可能になりました。

その他にも今年は、昨年からスタートしたパントリープロジェクトの充実、より多くの施設や団体の開拓および関係の向上、フードバンク活動の社会的な関心の向上など取り組むべきことは多くあります。貧困を簡単に解決することはできませんが、私たちの活動がより多くの方の意識を高め、大きな力に結びついていくことを望みます。

事務局長 和田裕介

パントリー コーディネーター ミッシェル・ライアン

セカンドハーベストジャパンに食料を提供して 3年 ハイイツ日本

文章:大原悦子

2003年の夏。ハイイツ日本(本社・東京都台東区)の取締役ポール・モリさんは帰宅途中、路上に止まった一台のバンに「Food Bank Japan」の文字を見つけました。家に戻るやインターネットでそのホームページを探し出し、旧 Food Bank Japan、現セカンドハーベスト ジャパンの代表チャールズ・マクジルトンとコンタクトをとったのです。

「私の出身国、米国では、大手の食品会社がフードバンクの活動にかかわるのは当たり前のことでした。日本にはなぜこのような活動がないのだろう、と不思議に思っていたところ、偶然団体のバンが目に入ったのです」とモリさん。早速、会社の経営陣にかけあい、食料を寄付することを決めました。

P2 に続く

目次

スタッフからのメッセージ.....	1
食糧提供企業:ハイイツ日本.....	1
2HJ のハーベスト パントリー.....	2
運転手募集中:詳細はこちら.....	3
お問い合わせ.....	4

セカンドハーベスト ジャパンについて

フードバンクは、市場に出すことはできなくとも、人々が消費するのに十分な安全性をもった食品を処理する代替案です。食品の小売店、製造業者、輸入業者は販売することができず廃棄しなければならない食品の問題に直面しています。企業が廃棄費用を削減するとともに、地域貢献を果たす手助けをするのがフードバンクです。

セカンドハーベスト ジャパンは2002年に非営利活動法人格を取得しています。その活動は米国におけるフードバンクネットワークの成功例である America's Second Harvest を模範としています。

ハイツ日本 P1からの続き

ケチャップやデミグラスソースで知られる食品会社、ハイツ日本は以来、缶詰やレトルト、冷凍食品など、月平均約350キロの自社製品をセカンドハーベスト ジャパンに提供しています。

「例えば、賞味期限が規定の日数以上残っていないと流通サイドに受け入れてもらえないため、まだ十分食べられる製品でも廃棄しなければなりません。おいしく食べてもらいたい、と作った製品が無惨に捨てられるのは、食品会社の社員にとっては何よりもつらいことでした」と同社のセルジオ・ソーサ社長は言います。それまで無駄に捨てられていた食料が、必要としている人たちの役に立つ。しかも、企業の側も貯蔵・廃棄などにかかるコストを削減できるのですから「みんながハッピーになる活動だと思います」。

アフリカ各地での勤務も長かったソーサ社長は、食料や飢えの問題には人一倍敏感です。先日、自らセカンドハーベスト ジャパンのボランティアも体験し、児童養護施設の子どもたちに野菜やジュースなどを届けました。将来的には同社の社員がみな、月に1回はボランティアとして活動に参加できるよう、態勢を整えたいそうです。

「おいしく食べてもらいたい、と作った製品が無惨に捨てられるのは、食品会社の社員にとっては何よりもつらいことでした」

ーセルジオ・ソーサ、ハイツ日本

「私の出身国ポルトガルでも米国同様、フードバンクの活動はとて盛んです。税制や社会システムもボランティア団体の活動をバックアップし、その結果22万人に365日、毎日2食の食事が提供されています」とソーサ社長。

「この点では、ポルトガルは日本よりかなり進んでいます。外国で災害が起きると、すぐ援助の手を差しのべる日本なのに、自国内の貧しい人たちの問題は見えにくいのではないのでしょうか」

セカンドハーベスト ジャパンとの偶然の出会いから3年。一人の行動が企業を動かし、その貢献によって何万という人々が空腹から救われることを、ハイツ日本は示してくれています。■



ハイツ日本のセルジオ・ソーサ社長がボランティア活動に参加しました

写真：池田真理子

2HJ のハーベストパントリーが家族や個人に食料を届けています

文章：ライアン・フェイ

仮にあなたが、まだ6か月にみえない赤ちゃんを含む5人の子供の母親だとします。収入は、夫が1か月に稼ぐ20万円だけです。家計のやり繰りがどんなものになるか想像できますか。まず、給料の3分の1は家賃に消えてしまいます。さらに、光熱費を毎月払わなければなりません。その上、3歳の子供と赤ちゃんのために粉ミルクとおむつを買う必要があります。このほかにも、上の3人の子供の給食費や文房具代それに洋服代も必要です。たとえこれらの必需品を賄えたとしても、子供が病気にでもなれば、医療費を工面しなければなりません。家計を少しでも助けるためにパートの仕事を探そうにも、子供の面倒をみなければならないので、在宅でできる仕事に限られてしまいます。夫が稼いでくれるお金が文字通り家族の命綱なのです。

夫はまじめに働いてくれます。しかし、土木作業員なので収入は安定しません。天気が悪ければ仕事はありませんし、夫が怪我でもすれば、それこそ入ってくるお金はなくなってしまいます。家族が食べていけるかどうか、夫が怪我をしないですむことにかかっており、また、天候にさえ左右されれば、四六時中心配しながら生活しなければなりません。

じつは、この例はライザ・バイタン* の家族のことです。2HJ の最も新しいハーベスト パントリー プログラムを通じて現在支援している40世帯(合計で週に約100人)のうちの1世帯です。「子供からおもちゃを買ってとねだられたら、もうちょっと待ってねと論じます」とライザは言います。「子供たちとの約束は決して破りません。でも、おもちゃを買うお金を貯めるには時間がかかります。毎月ぎりぎりの生活を余儀なくされていますから。」北米では、バイタンのような状況にいる家族はフードバンクから緊急の食料援助を受けることができます。一方、日本には食料を十分に得ることができない人が65万人** いるにもかかわらず、緊急の食料援助ができる体制は、2HJ がハーベスト パントリーを始めるまでまったくありませんでした。

P3に続く

ハーベスト パントリー P2からの続き

難民支援協会(JAR)のような団体が、食料を必要としている人の名前や住所および家族構成などを 2HJ に連絡してきます。それを受けて、2HJ では、食料を受け取る家族の宗教や食べ物の好みや食事制限などに応じて食料を箱詰めします。支援を始めてから 3 か月経った時点で、支援を受ける側のニーズに合っているかどうかを再確認します。梱包された食料は宅配便を使って定期的に送られます。「宅配便業者と非常に良い契約を結んでいて、支援先の個人や家族に食料を送るにはこれは何よりも効率的な方法なんです」と、ハーベスト パントリーのコーディネーターであるミッシェル・ライアンは言います。20kg までの食料なら 500 円で送ることができます。さらに、配達時間帯を指定できるので、受け取る人に都合の良い時間帯に配達してくれます。

「毎週(2HJ から)送られてくる食料のおかげで月に約 15,000 円節約できます。」とライザは言います。それに、普段は食べることのできない新鮮な野菜や果物や肉などを食べることができるのです。ライザによると、2HJ から荷物が届くと、子供たちは大喜びするそうです。ライザのような状況にいながら十分な食料を手にはできない人はまだまだたくさんいます。そのような人たちが必要なときに安全な食料を社会的に認容できる方法で手にできるように、ハーベスト パントリーはこれからも成長し続けていくことが期待されます。■

* プライバシー保護のため仮名を使用しています。
** セカンドハーベスト ジャパンの調査に基づいた数値です。



2HJのハーベストパントリーでは必要のある家庭や個人に食料を送っています

写真: 和田裕介

運転手募集中: 詳細はこちら

文章: デイビッド・アダムズ

これまでの人生から学んだことが 1 つあります。それは、何事も起こるには理由があるということです。しかも、全く予期していないときに限って何かが起こるものです。

2006 年の正月休みが明けて間もないころ東京ユニオン教会を訪れていた私は、礼拝後に地下室で開かれた分かち合いの会でチャールズ・マクジルトンとたまたま居合わせました。ちょうどフルタイムの仕事を辞めたばかりでした。伝統的な日本企業に勤めることに飽きていたのです。その数か月前には教会の結婚許可書に署名しており、結婚式の準備や自分の将来についての見直しで、精神的に疲れていました。さらに、奨学金に応募する準備も始めたばかりでした。愛する妻を連れて日本を出て勉強を続けたいと思っていたのです。そうです、その頃の私は新しい自分に脱皮する過程にあったと言っても過言ではないでしょう(笑)。何もかもが「宙に浮いたまま」の状態でした。1 つだけ確かだったのは、何かの一員になって何か目的を持たなければならないと感じていたことです。つまり、それまでの生き方を変えて新しい自分になりたいと真剣に思っていました。そうすれば、10 数年に及ぶ満ち足りた日本滞在の最後になるだろう残りの数か月間をもっとも有意義に過ごせるだろうと考えていたのです。日本に何か恩返しをするべきときだったのです。なぜそう思うかと言うと、今振り返ってみて、あの日チャールズと会ったのは単なる偶然ではなく、神様のお導きによる必然だったからです。

チャールズと 2 人で中華料理を食べながら 2HJ についての話を聞きました。場所は、秋葉原駅と浅草橋駅の中間に位置する 2HJ の倉庫と事務所から通りを 1 つ隔てたところにある中華料理店です。2HJ の仕事に真摯に取り組み、また、2HJ の使命について真剣に考えていることがチャールズと話していて伝わってきました。気がついたら、「日本にいる残りの期間、運転手としてボランティアさせてください」と言っていました。そう言ってよかったと思っています。

セカンドハーベスト ジャパンの活動範囲は止むことなく拡大し続けています。そして、日本における非営利のフードバンクとしてその名が知られるようになってきています。今では私はその一員です。

P4に続く

ボランティアには笑顔があふれ、雰囲気は家族的です。毎回それまでとは何か違ったことがあるので、退屈することがありません。

—デイビッド・アダムズ
運転ボランティア

運転手募集中 P3からの続き

それからの数か月間は平均して週に1度ボランティアをしています。朝、地下鉄に乗って2HJの倉庫まで行き、そこから2HJの車を船橋市まで運転し、冷凍食品の巨大企業であるニチレイの倉庫に車を止めます。そこでは、霜で覆われた、いろいろな形や大きさの段ボール箱に入った冷凍野菜数百キロから1トン分を車に積み込みます。それが終わると今度は、幕張にあるコストコへ向かいます。パンや果物や野菜などが入ったケースが山のように積み、私の到着を待っているのです。量がいつもより多いため、全部を車に積み込むのに頭を使わなければならない場合は、箱やケースの向きを変えたり、一度積んだ荷物の場所を変えたりしながら作業します。まるでテトリスをしているようだ、と別のボランティアに冗談で言ったことがあります。積荷作業が無事終わると、2HJの倉庫へ戻ります。運んできた食料はそこで仕分けされ、食料を必要としている難民やホームレスや孤児それにシェルターへ送られます。食料を初めて運んだ日から今まで、ボランティアとして働いていると感じたことは一度もありません。今では運転手としてだけでなく、週末にもボランティアとして参加して言えることは、2HJには人を惹きつける力があるということ、それに、2HJは貴い目的を持って活動しているということです。ボランティアには笑顔があふれ、雰囲気は家族的です。毎回それまでとは何か違ったことがあるので、退屈することがありません。皆さんの中に、自由にできる時間と運転免許証をお持ちで、困っている人のために自分のことを勇気を持って少しだけ犠牲にしようという方はいませんか。そのような方はぜひ2HJに連絡してみてください。やりがいのある仕事の一翼を一緒に担いましょう。■



デイビッドのような運転手がコストコでほぼ毎日パンや生鮮野菜を引き取っています
写真: カリン・スモリンスキー

「すべての人に、食べ物を」パートナーの皆様への感謝

主な食糧提供企業

コストコ ホールセール ◆ ニチレイ ◆ CP ◆ ハイツ日本 ◆ マスターフーズ ◆ Eco Business ◆ ひかり味噌 ◆ テング ナチュラル フーズ ◆ Fujimamas ◆ ネスレ ジャパン ◆ Foreign Buyers Club

寄付・出資協力企業

リーマン・ブラザーズ ◆ モルガン・スタンレー ◆ American Chamber of Commerce in Japan ◆ ニュー スキン ジャパン ◆ FIT for Charity ◆ ステート・ストリート ◆ Tokyo American Club Women's Group ◆ コストコ ホールセール ◆ アリサンオーガニックセンター ◆ クレディ・スイス・ファースト・ボストン ◆ Mr. Kei Sato ◆ Seisen International School Hunger Fast ◆ Seisen International School Social Outreach ◆ 小百合の寮 ◆ Orrick ◆ 電通 ◆ フィリップモリス ◆ Black Ale Pub ◆ オルカ・ワイン

商用車提供

メルセデス・ベンツ・ファイナンス(株) ◆ ビーコン コミュニケーションズ

後援団体

ビーコン コミュニケーションズ ◆ ギャビン・アンダーソン・ジャパン ◆ 川崎陸送株式会社 ◆ Kuehne + Nagel ◆ Yokosuka Naval Base Chiefs' Association

教会

聖アルバンス教会 (St. Albans) ◆ 東京ユニオン教会 (Tokyo Union Church) ◆ ウエスト東京ユニオン教会 (West Tokyo Union Church) ◆ 六本木教会 (Roppongi Church)

学校

東京インターナショナル・スクール (Tokyo International School) ◆ 清泉インターナショナル スクール (Seisen International School) ◆ アメリカン・スクール・イン・ジャパン (American School In Japan) ◆ 聖心会 (Sacred Heart) ◆ 西町インターナショナルスクール (Nishimachi International School) ◆ まりスト・ブラザーズ・インターナショナル・スクール (Marist Brothers International School) ◆ 東京韓国学校 (Tokyo Korean School) ◆ カネディアン・アカデミー (Canadian Academy)

制作協力

記者

デイビッド・アダムズ
大原悦子
ミッシェル・ライアン
和田裕介
ライアン・フェイ

写真提供

カリン・
スモリンスキー
池田真理子
和田裕介

翻訳者・編集者

長岡洋人
ハントリー・ニコラス
パトリシア・デッカー
和田裕介

お問い合わせ先

東京都台東区浅草橋 4-5-1

水田ビル1F

E-mail: info@2hj.org

URL: www.2hj.org

TEL: 03-3838-3827

FAX: 03-3863-4760